

第22号

本小の教育「授業改善研」

4年互授

◎本小授業改善『主体的・対話的な深い学び』

今回は、4学年・算数、単元名「がい数の使い方と表し方」である。「概数」の概念、「四捨五入」の定義

① 9月08日(火) 4校時目 知念 三幸 先生 / 単元〔2/8〕 時間目 五入」の定義

② 9月09日(水) 4校時目 高嶺 峻 先生 / 単元〔3/8〕 時間目 ルールなどを

③ 9月10日(木) 2校時目 比嘉真紀子 先生 / 単元〔3/8〕 時間目 子供達の言葉

から「聞き」、友と、ノートと、教科書と「つなぎ」、困ってる子には、既習事項へ、自力解決出来る処まで「もどし」、「ケア」をしていく授業の姿が窺えた。4学年の「協働」に感謝です。

■ 4学年(算)「知念三幸、高嶺峻、比嘉真紀子」[互見授業]



■【4の1】「知念 三幸」



- 「合い言葉」(えんぴつ置いて1、2、3！)
 - 子供と教師の約束の言葉がある。(学習規律)
 - 本日の授業は、「概数」の概念から「四捨五入」の考え、規則性(ルール)を学ぶ。
 - 子供達に「考えさせ」「子供達の声」を待つ
 - まず、数直線を活用して、自分だけで考察
 - 次に、ペア(お隣)同士の「話し合い」&「学び」である。
-
- 視覚的に(数直線) 10等分にして、その中央値を 1500 とした。(上図)
 - 1,500 より 小さいものは、「1,000」
 - 1,500 より 大きいものは、「2,000」
 - [子供A] じゃあ、1500 は？
 - [クラス] キレがいいから 1500 のままでいいじゃん
 - [教師] 何千人ですか？の問いに反するよ
 - 「地震(震度2~3程度)」に気づかぬほどの担任(三幸)の白熱した授業であった。

■【4の2】「高嶺 峻」



- 本時は、1組の「次の時間」に当たる内容
- まず、教室の入り口に「挨拶」ステッカー
- 4学年の各教室に、日々の「諺」が設置。
- 峻先生の「優しい」「落ち着いた」「温かい」声が、子供達の「安心感」を保障している
- 板書の字も「丁寧で」「見やすい」「書くスピード」も子供達に合わせ、安心感がある
- [+万][-万][千][百][+][-]それぞれの位を色分けして、見やすくしてある(工夫)
- 「子供達の理解力」と「思考力」とを確認しながら、丁寧に授業を進めている。
- 「一万の位」で「四捨五入」。「千の位」に目印の線を記入させていた。(1組を見て)
- 「四捨五入」して消す部分には、きっちんと「見え消し線」を書き込んでいた。
- 「学年連携」の取れた、いい授業でした。

■【4の3】「比嘉真紀子」



- 「正座」=「礼」=「(3秒)黙想」授業開始。
- 授業始めの挨拶、黙想などが素晴らしかった
- 「座席は3名1グループ」の対話型の基本型
- 「1つ欠席者」の席があった。しっかりと、グループ活動の席に直してあった。一寸した事だが、仲間意識、所属意識、居場所づくり仲間はすれを作らない「学級経営の鉄則」だ。
- 「導入で」も、「本小の図書室の本の冊数」からの「クイズ形式」で、教科書の「問題」へ。
- 「めあて」を、みんなで考える。に於いて、[児童] ~ する方法を「知ろう。」 [教師] ~ 先生が、教えて、知るだけ？ [児童] ~ する方法を「考えよう。」
- さりげない会話だが、「本質を突いた」スゴイ会話が、普段から交わされていると感じた。
- 「キラキラ・パワー！」(何これ!??)
- 「四捨五入」で、1つ上の位に「繰り上がり」が出来るか(パワーがあるか、らしい。)
- 兔に角、楽しい、工夫ある、授業実践でした



【感想】 「端数処理」、「四捨五入」、「平たくする」、「丸める」など...。 その「思考」を、見える化！

- 「算数・数学の『言語活動』であり、「平たく」や、「丸める」などもそれに当たる。算数・数学の良さを
- 「四捨五入とは、求めたい位の1つ下の位の数が、四以下の数字(0、1、2、3、4)の時は切り捨てて、五以上の数字(5、6、7、8、9)の時は切り上げを行って、求めたい位の数に1を加える方法である。」
- 「皆さんご存じの通りです。他に『二捨三入』という方法があることをご存じでしょうか。数学の深み。」
- 「(1、2の時は切り捨て)」「(3、4、5、6、7の時は 5にする)」「(8、9の時は 切り上げます)」
- 例えば ■ 11~19 までの 数があるとします。この数を、一の位で『二捨三入』すると、
 - 11、12は「10」
 - 13、14、15、16、17は「15」
 - 18、19は「20」と なります。



